

『進学事典 応援号』のワークシートで 進路意欲を高めミスマッチを防ぐ

北海道栗山高校(北海道・道立)

スクールデータ

生徒数210人
(男子118人・女子92人)
普通科6学級
進路状況(2016年3月) /
大学進学14人、
短大進学4人、
専各進学20人、就職25人、
その他8人
北海道夕張郡栗山町中里
64-18
電話0123-72-1343
http://www.kuriyama.hokkaido-c.ed.jp

北海道栗山高校は水田に囲まれた自然豊かな地にある伝統校。札幌の通勤圏という立地も手伝って、生徒の進路志望は非常に多様だ。例年3〜4割が就職を希望し、その他は大学や専門学校などへの進学を目指す。2015年度より、小中高一貫キャリア教育推進事業の指定を受け、地元4小中学校とともに12年間を見通したキャリア教育で地域の未来を担う人材を育てるプロジェクトを始動した。

誰でも無理なく自己理解と進路検討ができる構成を評価

1、2年生から丁寧にキャリア教育を行っている同校。特にインターシップを軸にした職業観成教育には力を入れ、総合的な学習の時間はもちろん情報の時間を使った発表にも熱心だ。

それでもなお、ミスマッチによる早期退学、早期離職の問題をどう解決すればよいか課題感があるという。「例えば進学希望者に対しては様々な学校説明会に連れて行き、自分でも選択するよう促しつつ、こちらの用意したテキスト等を使って進路指導しています。それでも何をしたいのかわからないという生徒も多く、手法に行き詰まりを感じていました」と3学年主任の佐藤陽一先生。「生徒が自分で気づき、自分でチャレンジしたくなるような仕掛けを作るしかないと考えていたんです」

そこで活用することにしたのが『進学事典 応援号』。学校を比較検討するための冊子だが、これに付属する志望理由書を書く練習用のワークシートに注目。自分の長所や適性などを考える自己分析から始め、少しずつ志望理由書に近付けていくものだ。「書くことが苦手な生徒も、無理なく一つひとつプロセスを踏んで取り組める」と佐藤先生は評価する。

2クラスの担任がT.Tで1クラスずつ授業を行う

具体的には2年生の冬休み明けに『進学事典 応援号』を配布し、各自が付属の適性検査を受ける。そして、検査結果も参考にしながら冊子で学校比較をし、進路に関するリクルートの講演会を聴く。その後、ワークシートにとりかかる。なお、就職希望者にも志望理由をしっかりと考えてほしくて、一部アレンジしながらも同じ取り組みを実施している。

教室でワークシートと先輩が書いた志望理由書の見本を配り、来年度、多くの生徒が先輩たちのように志望理由書を書くことを伝える。そして、各自が最終的には志望理由書が書けるようにワークシートの設問に答えていく。「みんな真剣に取り組みますが、なかには気持ちが悪くなっていなくて書けない生徒も。ステップを遡り何度でも書いてみてとアドバイスしました」と3学年担任の五島創先生。「志望理由書の書き方指導についてはずっと試行錯誤していました。こういうワークシートを使えば、教員がひと目見るだけで書けていない生徒がわかり、どこでつまづいているかわかる。非常に指導しやすくなりました」

した」と佐藤先生も言う。同校は1学年2クラス。「進学事典」を配る最初の授業は、2クラスのの実施時間をずらし、1クラスの授業に2クラスの担任が入ってT.T(チームティーチング)を行う。

ワークシートを書くために、生徒は進路先について調べる必要がある。それによって気持ちが固まったり、就職から進学へ希望を変えるケースもある。ワークシートは先生がチェックし、3月中旬の3者面談の参考にもした。「4時間かけてじっくり取り組めたのがよかった。2年生のうちにはしっかり志望を固めて、3年生からはブレずに進路実現へ向かうという流れをつくりたい」と佐藤先生は言う。取り組みを始めたのは今年度の3年生が初めてだが、例年より主体的に進路を決めている手応えを感じるそうだ。

課題である離職、退学については「たとえ辞めることになっても、次に進んで前向きに生きていく、そんな生徒を育てて生きたい」と五島先生。佐藤先生は「今回のような取り組みを通して生徒に自信をつけさせたい。自分のいいところを力強くアピールできる力をつけてほしい。そうすれば苦しい時があっても頑張って乗り越えてくれると思います」と締めくくった。

取材・文 / 永井ミカ

『進学事典 応援号』のワークシートより

【エピソード：目標を見つけたきっかけ】

- パティシエを目指すきっかけはアニメです。そのアニメはお菓子やケーキ作りを学んでプロを目指す物語で、主人公が作ったケーキなどを食べて笑顔になる人を観て、私もたくさんの人を笑顔にできるパティシエになりたいと思いました。
- 看護師を目指すきっかけは、人を助けたい、やりがいのある仕事に就きたいと思ったことです。看護専門学校に行きたいと思ったきっかけは、看護の知識をより深く知りたい、人を助けることはどういうことなのか学びたいと思ったからです。



3学年主任・担任
佐藤陽一先生(右)
3学年担任
ごしま はじめ
五島 創先生(左)
「苦しさ乗り越えられるようなたくましさのある生徒、自信がもてる生徒を育てたい。どんな取り組みを行うとも根底にあるのはそこです」(佐藤先生、五島先生)

